

令和7年度「全国学力・学習状況調査」に基づく学力向上の取組について

令和8年2月 湯河原町教育委員会

湯河原町教育委員会では、町内小中学校とともに検証委員会を設置し、令和7年4月に実施した本調査の結果を分析しました。この調査によって測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面ですので、この調査で、児童生徒の学力の全てが分かるものではありません。

湯河原町教育委員会といたしましては、この結果を分析し、各学校の取組のよさを充実させるとともに、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善をより一層推進してまいります。

また、児童生徒の健やかな成長のために、家庭や地域の皆様のご協力が不可欠ですので、今後とも各学校へのご理解とご支援をお願いいたします。

1 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の概要について

- **実施日** 令和7年4月17日（木）
- **対象** 町内の小学校第6学年（123人）及び、中学校第3学年（125人）
- **目的**
 - ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の視点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ・そのような取組を通じて、教育に関する持続的な検証改善サイクルを確立する。
- **調査内容**
 - (1) **教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）**
 - ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 - ②知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等
 - ※調査問題では、上記の①と②が一体的に行われている。
 - (2) **質問調査**
 - ・児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活諸側面に関する調査）
 - ・学校に対する調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教科条件の整備の状況等に関する調査）

2 教科に関する調査について

☆全国の平均正答率との比較について

◎小学校の国語・算数・理科、中学校の国語、算数・理科・・・やや低い（±10%pt以内）結果となっています。

◎正答率に関しては、令和6年度から令和7年度にかけて全国平均との差が縮小しました。一時的に全国平均との差が拡大した年度も見られましたが、4年間の推移としては概ね全国平均との差が縮小している傾向にあります。しかし、依然として全国平均を下回っており、引き続き学力改善に向けた取り組みを継続する必要があります。

☆国語について

学習指導要領に基づく区分別の状況において、「我が国の言語文化に関する事項」の領域では、全国平均を上回る結果が得られました。これは、言葉の変化や世代間の言葉の違いに気づく力が育まれたことを示しています。また、「話すこと・聞くこと」の領域でも、ほぼ全国平均に近い数値が記録されました。自らの聞き手としての意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えを比較しながら、自分の意見をまとめる能力を身に付けています。

☆算数・数学について

算数においても、国語と同様に、正答率は令和6年度から令和7年度にかけて全国平均との差が縮小しました。【数と計算（式）】の領域では、計算に関する基本的技能が定着している一方で、計算過程を数学的な表現で説明する点に課題が見られました。今後は、基本的な知識及び技能の定着を図るとともに、単元や学年をこえた知識及び技能のつながりを意識した系統的な指導を目指していきたいと考えております。【図形】の領域では、定義に基づく図形の理解や複数の構成要素を関連付ける力に課題がありました。授業では、注目する図形の構成要素を共有し、明確に示すことにより、数学的な見方・考え方を促進する実践に努めます。

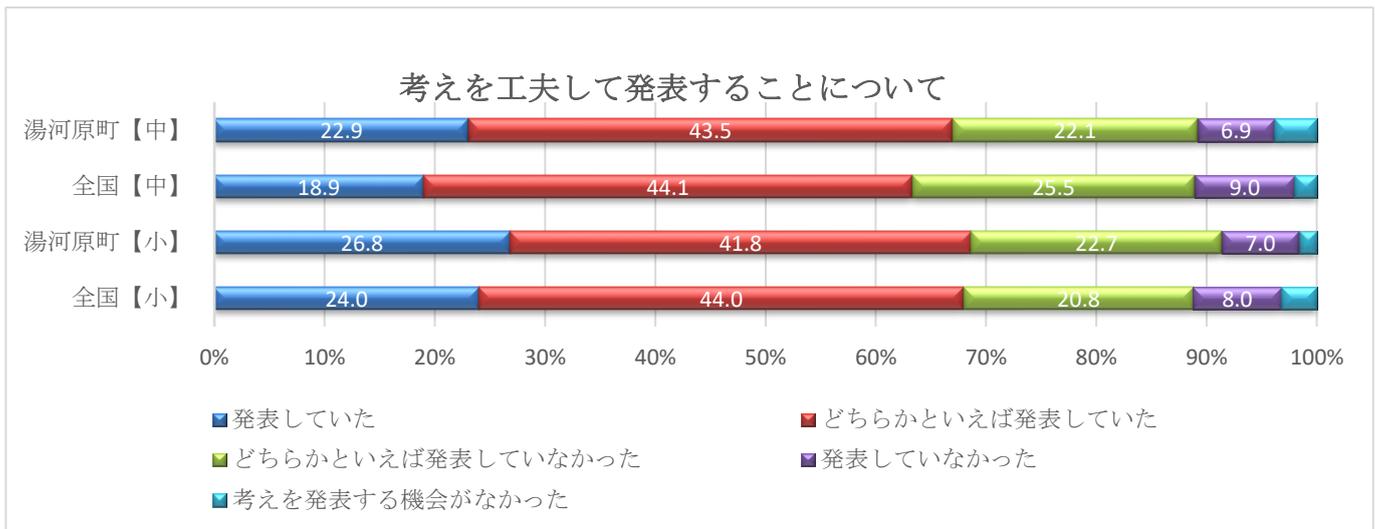
☆理科について

理科では、実験において条件を整理しつつ方法を考え、得られた数値を根拠にした考察に成果が見られました。引き続き、観察や実験を通じて得られる結果を比較し、多面的に考察する学習過程を大切にしていきたいと思っております。一方で、【エネルギー】の領域では、乾電池の直列つなぎに関する理解や、電流、電圧、抵抗、熱量に関する理解に課題が見られました。実際の操作や計測を通じて、実感を伴った理解を深められるよう、授業改善に努めてまいります。また、知識がつながる瞬間を生徒自身が実感できるよう工夫し、概念的な理解を目指して取り組んでいきます。

3 質問調査について

☆考えを工夫して発表すること

「自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表しているか」という設問に対し、肯定的に回答した小・中学生の割合が全国平均とほぼ同等の水準となりました。学習に対して見通しを持つことが、発表する場面での資料や話の構成への工夫につながっている様子が伺えます。



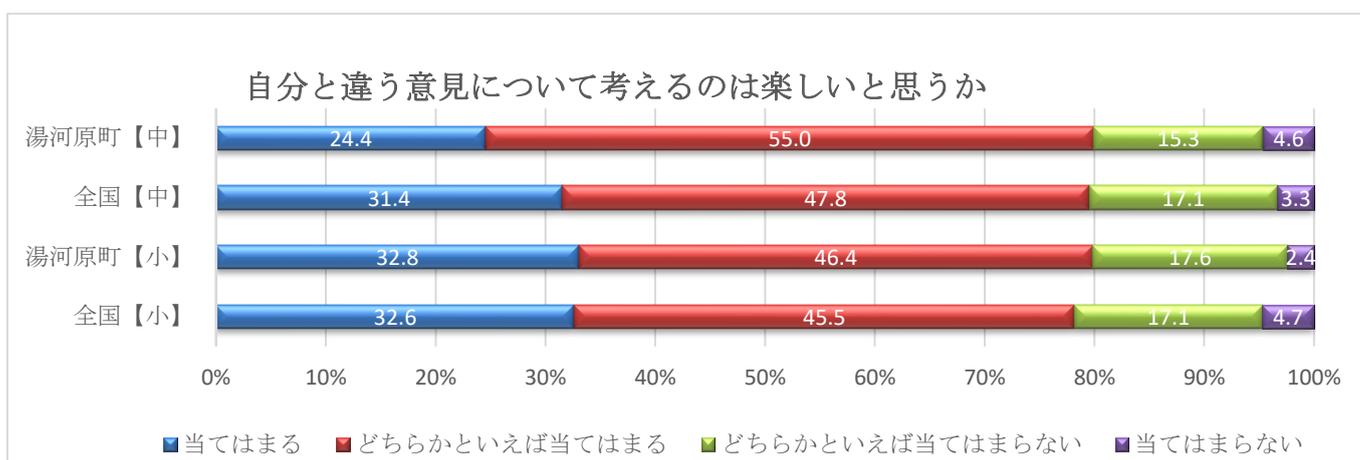
これは、発表に至るまでの過程を重視し、計画的に学習に取り組む姿勢を指導してきた成果であると考えています。今後も、発表する目的を明確にし、相手意識を重視した指導に取り組んでいきたいと思っています。

☆自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか

小・中学生ともに、『自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか』という設問に対して肯定的に回答した割合が全国と比較してほぼ同程度の水準となりました。

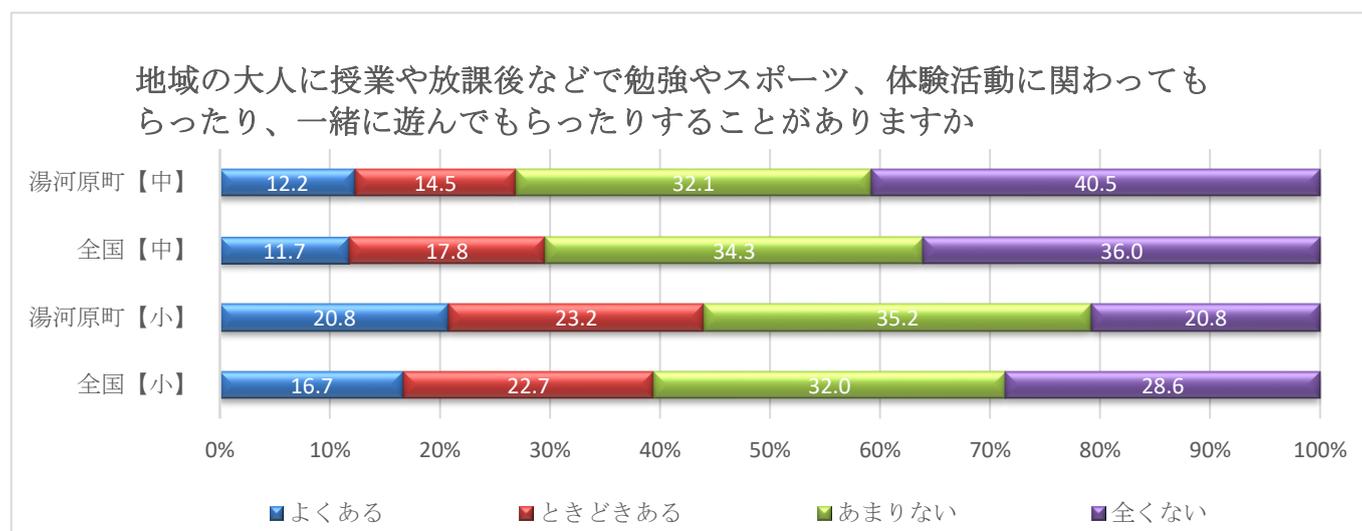
この設問は、多様な価値観の受容や批判的思考力の育成、学力向上の観点から毎年注目されています。各学校においては、「自分と違う意見を大切にする」「多様な考え方に触れる」といった授業や学校行事、例えばディベートやグループディスカッション、読書活動の充実が求められています。

さらに、記述が苦手な児童生徒への個別支援や、保護者との連携による家庭学習環境の整備も重要です。地域や家庭と連携し、子どもたちが安心して多様な意見に触れ、自ら考えを深められる学習環境を整えることが今後の教育において大きなテーマであるといえるでしょう。



☆地域と学校との連携・協働

湯河原町では、学びと実生活、実社会（仕事、社会参加、人生）を結びつけることで、学習の価値を高めるために様々な体験学習を行っています。具体的には、温泉入浴、茶摘み、鮎の放流、真鶴道路見学などが挙げられます。



これらの体験学習は「地域と学校との連携・協働」に基づく重要な取り組みです。「地域の大人に授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりする事がありますか」という設問においては、湯河原町の子どもたちが全国平均を上回る結果を示しています。これは、地域との豊かな交流や体験活動の機会が充実していることを物語っています。

地域の力や人材を生かした体験的な活動は、子どもたちの学習意欲を高め、「我が郷土ゆがわら」を大切にす気持ちを育むものと考えられます。今後も、さらに地域と連携した学習活動やキャリア教育に取り組んでいきたいと思ひます。

4 その他の質問調査から

【肯定的であった回答】

(学校関係)

- 先生は自分のよいところを認めてくれていると思っていること
- 人が困っているときは、進んで助けていること
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っていること
- 先生は勉強を分かるまで教えてくれていると思っていること
- 学校に行くことや、自分と違う意見について考えることを楽しいと思っていること
- 学習したことは、自分の生活と繋がっていて、社会に出たときに役に立つと思っていること

(その他)

- 読書に親しむこと
- 人の役に立ちたい人になりたいと思うこと
- 学級やグループで話し合ったり協力したりしながら協働的に生活すること

【課題が見られた回答】

(学校関係)

- 学校の授業時間以外に1日当たりどれくらい勉強しているか
- 情報を集めたり整理したりしながら適切に処理すること
- どのように考えたのかを説明したり、振り返ったりすること
- 教科ごとの楽しさを見つけ、学ぶことへ意欲や自信をもつこと

(その他)

- 毎日朝食を食べる、同じくらいの時刻に寝起きするなど、生活習慣に関わること
- 学校の授業時間以外に、本や新聞を読んだり、自分の興味のあることを勉強したりすること
- 健康に過ごすために、学習したことを普段の生活に役立てること

学校の指導充実のポイント

以上の分析をもとに、学校における指導充実のポイントをまとめました。それぞれの学校では、これらのポイントを踏まえて、さらに児童生徒の状況に合わせて指導の充実に取り組みます。

◆計画的に学習等に取り組む姿勢を育む

→学習の計画性が身についている児童生徒ほど学習が定着している傾向があります。家庭学習やテスト週間の学習を計画的に行うことで、自らの学びをデザインする力を育みます。

◆複数の解法や他者の意見に興味を示す姿勢を育む（多様性の理解と認知）

→「他の解き方はないかな？」と他者の意見を尊重しながら協働することで、学びの理解が深まります。正答だけを導くのではなく、様々な思考をはたらかせながら、多様性を認められる授業を構築します。

◆教科を学習する目的や意義を理解させる

→教科の学習が社会でどのように活用できるのか、学習の目標や意義を理解することが学習の意欲につながります。児童生徒が必要感をもって取り組める授業を実践します。

◆読む力を育む

→動画等に触れる機会が増え、活字から情報を得る経験が減っています。授業だけでなく、豊富な書籍を有する図書室や小学生の電子書籍を活用し、読書を推進することで、文章の意味を正確に読み取る力を育みます。

保護者の皆様へお願い

子どもたちには『学んで成長しよう』とする思いがあります。このことを大切に、現在の学年の学習に限らず、将来にわたりお子様の学習が充実し、健やかに成長されるよう、次のことをお願いします。



- ♥ 湯河原町内の小中学校は湯河原町の児童生徒の家庭学習の時間が全国平均を大きく下回ります。生活習慣、家庭学習等は各ご家庭でのご指導、ご協力があって改善されるものです。「家庭学習のすすめ」を活用し、規則正しい生活や学習習慣の定着のためにご指導とご協力をお願いします。
- ♥ 湯河原町内の小中学校は書籍がとても充実しています。また、小学生は電子書籍がタブレットから閲覧できます。自分が子どものころ夢中になった本を勧めたり、今、お子様が読んでいる本を話題にしたりすることで、読書への意欲が向上し、習慣化につながります。
- ♥ テストの点数や成績などの『結果』に対して誉めたり叱ったりするより、日頃の学習の様子を見守り、「〇〇をよくやっているね。」など、お子さんの『取り組み』や『努力』に関する前向きな言葉をかけることが「学ぶ意欲」や「粘り強く取り組む姿勢」を育みます。
- ♥ 家族や仲間と一緒に、生活体験や自然体験を行い、その時の喜怒哀楽といった感情を共有しましょう。また、様々な体験活動を通じて、異年齢と積極的に関わり様々な価値観に触れ、多様性について理解し、認められる姿勢を育んでください。
- ♥ 日ごろの会話を通して、順序よく筋道立てて話すなど、表現力を伸ばすようにしましょう。自分の思いや考えを話す機会を作るよう「あなたはと思う？」「それでどうなった？」などの問いかけをしましょう。さらに、自分の思いや考えを日記などに書くことを勧めましょう。